

# 何度でも学びたい量的研究に必要な基礎知識

臨床現場での疑問（クリニカルクエスチョン）は、科学的に答えられる問題（リサーチクエスチョン）に翻訳し、量的なデータから答えを探索・検証する研究によって解決することが必要です。

研究の理解・適切な実施のためには、リサーチクエスチョンに対し、量的データをどのような研究デザインによって得るか、得られた量的データに対してどのような統計手法を選択するのか、を統計学的観点から理解することが重要です。

本セミナーでは、研究デザインや統計学の基礎知識を学ぶことにより、受講される方々の研究の質が向上することを期待します。

**【対象者】** 論文投稿を目指す看護系大学の学生や教員、看護師、保健師、栄養士等

- ・医療職のための統計セミナーなどの基礎的なセミナーから発展した内容が知りたい方
- ・大学や大学院などで受けた統計学に関する講義の内容を、もっと理解したい方
- ・看護研究の論文を発表した経験等から、統計学の理解を深め、研究に活かしたい方

**【開催日】** 2019年11月23日(土)及び24日(日)  
両日とも、10時00分から16時10分 ※23日(土)9:30受付開始

**【定員】** 60名程度(定員になり次第×切)

**【受講料】** 25,000円(学生及び所属先が当協会の賛助会員の場合、18,000円)

※お支払いは、請求書到着後、銀行口座に2019年10月31日までにお支払いください。  
その日までにご入金の確認ができない場合は、キャンセル扱いとなります。

※受講者には、講義終了後「修了証」をお渡しいたします。

**【プログラム】** 裏面記載

**【持ち物】** 受講票(お申込みいただいた後にお送りする請求書に同封します。)

**【申込方法】** 当協会ホームページに掲載している申込書(Excelファイル)にご記入の上、電子メール又はFAXにてお申込み下さい。

お申込み専用メールアドレス kenshu@hws-kyokai.or.jp  
FAX番号 03-5623-4125

**【会場】** 浅草橋ヒューリックカンファレンス ROOM O  
(東京都台東区浅草橋1-22-16 ヒューリック浅草橋ビル3階)  
JR総武線「浅草橋駅(西口)」より徒歩1分  
都営浅草線「浅草橋駅(A3出口)」より徒歩2分



### 講師

#### 米倉 佑貴

聖路加国際大学大学院  
看護学研究科  
看護情報学分野 助教

#### 上村 夕香理

国立国際医療研究センター  
臨床研究センター  
生物統計研究室 室長

#### 川原 拓也

東京大学医学部附属病院  
臨床研究支援センター 助教

#### 上村 鋼平

東京大学大学院情報学環  
生物統計情報学 特任講師

#### 篠崎 智大

東京理科大学 工学部  
情報工学科 講師

#### 坂巻 顕太郎

横浜市立大学  
データサイエンス推進センター  
特任准教授

## 研修プログラム

11月23日(土)

時間	内容
9:30～10:00	受付
10:00～10:10	会場説明
10:10～11:40	<b>講義① 量的研究のリサーチクエストと研究方法(米倉 佑貴)</b>
	量的研究から意義のある成果を得るためには良いデータを得ることが不可欠で、そのためには良い研究計画を立てることが重要です。データ解析はデータを集めたあとで見直すこともあります。データ収集のほとんどはやり直せません。この講義では量的研究の進め方、計画の立て方を概観し、データを取ったあとで後悔しないためのポイントをみていきます。
11:40～12:50	昼食・休憩
12:50～14:20	<b>講義② 研究デザイン(上村 夕香理)</b>
	“知りたいこと(クリニカルクエスト)”をデータから評価するためには、研究開始前に研究の設計図を適切にたて、研究デザインを組むことが重要となります。この講義では、様々な研究デザインやそれぞれの利点・欠点、気を付けるべき落とし穴等について講義します。
14:20～14:40	休憩
14:40～16:10	<b>講義③ 記述統計(川原 拓也)</b>
	適切にデザインされた研究で収集されたデータは、記述統計・推測統計の道具により整理されることで臨床に還元されます。この講義では、記述統計に焦点をあて、それぞれのデータが分類される型ごとに、データの要約方法の基礎を学ぶことを目的とします。さらに、要約結果を提示するための図表を作成する際のポイントや具体例を紹介します。

11月24日(日)

時間	内容
10:00～11:30	<b>講義④ 推測統計(上村 鋼平)</b>
	データが何らかの傾向を示した際に、偶然そのような傾向が得られたのか、真の傾向は何なのか、を知りたいということがあります。推測統計を用いると、データ(結果)の不確実性を考慮した上で、「2群の間に差がある」などの結論を導くことが可能になります。この講義では、推測統計のしくみと使い方について、具体例によるイメージを持ちながら、基礎から学んでいきます。
11:30～12:40	昼食・休憩
12:40～14:10	<b>講義⑤ 回帰分析(篠崎 智大)</b>
	回帰分析の知識を身に着けることで、読める論文や実施できる研究の幅が広がり、一歩踏み込んでデータに向き合うことができます。この講義では、「回帰」とは何か、回帰を「モデル」で表すとはどういうことか、からはじまり、最小限の数式から、気を付けるべきポイントをなるべく正確に理解することを目的とします。
14:10～14:30	休憩
14:30～16:00	<b>講義⑥ 検定(坂巻 顕太郎)</b>
	不適切な方法で計算されたp値から研究の結論を導くことに対する批判が高まっています。p値は検定の結果として得られるものですが、なぜ検定が必要なのか、どのような検定方法を選択すべきなのか、検定結果を適切に解釈するとはどういうことなのか、を理解しなければ、適切に研究結果を解釈することはできません。この講義では、How toではなく、検定の目的と適用上の注意点を理解することを目的とします。
16:00～16:10	アンケート記入・提出

※各講義の最後に、理解を確認するためのミニテストとその解説、及び質疑応答の時間を10分程度設けます。